

1-13-19

世子尚賢の、進貢の表（一六四二、二、〇）

琉球国中山王世子臣尚賢、誠忻誠忭、稽首頓首して上言す。

伏して以うに、天、下民を佑け、四時序ありて風雨順い、五穀熟して人民育つ。恭しく惟うに、皇帝陛下、天を承け命を受け、宇内に君師たり。相して以て之を奠め、和して以て之を安んず。

是を以て、克く天心を享け、永く宝曆を膺け、一統文明の治を大いにし、万世太平の基を盛んにす。臣尚賢、海国に僻居し、聖育窮まり無きを荷蒙するも、補報を伸ぶる莫し。臣国、土産もて進貢して芹曝の微忱を比献し、紫宸を仰ぎて三祝し、聖寿の以て天と斉しきを祈る。天を瞻み聖を仰ぎ激切屏營の至りに任うる無し。謹んで表を奉り貢を称して以聞す。

崇禎十五年（一六四二）二月 日

琉球国中山王世子臣尚賢、謹んで上表す

1-13-20

世子尚賢の、進貢の表（一六四四、二、二八）

琉球国中山王世子臣尚賢、誠忻誠忭、稽首頓首して上言す。

伏して以うに、天、下民を佑け、四時序ありて風雨順い、五穀熟して人民育つ。恭しく惟うに、皇帝陛下、天を承け命を受け、

宇内に君師たり。相して以て之を奠め、和して以て之を安んず。

是を以て、克く天心を享け、永く宝曆を膺け、一統文明の治を大いにし、万世太平の基を盛んにす。臣尚賢、海国に僻居し、聖育窮まり無きを荷蒙するも、補報を伸ぶる莫し。臣国、土産もて進貢して芹曝の微忱を比献し、紫宸を仰ぎて三祝し、聖寿の以て天と斉しきを祈る。天を瞻み聖を仰ぎ激切屏營の至りに任うる無し。謹んで表を奉り貢を称して以聞す。

崇禎十七年（一六四四）二月二十八日 琉球国中山王世子臣尚賢、謹んで上表す

1-13-21

世子尚賢の、父王尚豊の死去を告げ、請封する奏

（一六四四、二、二八）

琉球国中山王世子臣尚賢、一本もて王爵を請封し愚忠を効し盛典を昭らかにする事の為にす。

崇禎十三年（一六四〇）五月初四日、痛ましくも我が先王臣尚豊、辞世して薨逝す。念うに予小子臣尚賢、嗣嫡にして祧を承く。然れども王業永存するに、合行に継述すべし。侯服は度有れば敢えて僭称せず。旧典に欽遵して請封し、綸音もて錫爵するを佇ち望む。此の為に、臣尚賢、遵いて事宜を將て礼部に移咨して知会し、謹んで疏章を具し、正議大夫金応元を遣わし齎馳し叩奏せしめて聖聰を冒瀆す。然り而して小臣の請封は該国の恭順を明らか